

イギリス政府は道路の混雑緩和に向けて道路を有料化する計画を明らかにしている。保険会社の方でも走行距離を基に保険料を科すところも出てきている。Pay-as-you-driveの時代が訪れようとしている。

道路有料化法案

イギリス政府は2006年11月15日に、全国的な道路有料化計画の原案を公表している。政府は道路の混雑緩和に向け、抜本的な3施策を検討しているが、道路を利用した分についてドライバーに使用料金を科す(ロードプライシング、ロードユーザーチャージング、コンジェスジョンチャージング等と呼ばれる)というのが、そのひとつである。ロードプライシングの一方法として車両にハイテクのブラックボックスを搭載して走行距離を測る、というpay-as-you-driveスキームを導入する計画である。

HOW PAY AS YOU DRIVE WORKS



- 1 車両のトランクにテレマチック装置を搭載する
- 2 GPS衛星を使って走行ルート、時間を把握する
- 3 この情報がテレマチック装置に記録、保存される
- 4 この装置が保険会社のコンピューターにデータを送信する
- 5 これに基づきコンピューターが保険料を算出する

これまでのところNorfolk、East Midlands、BerkshireのReadingといったThames Valley地域の一部、Cambridgeshire、Durham、Greater Manchester、Shrewsbury and Shropshire、Tyne and Wear、West Midlands等、9地域がロードプライシングのトライアル候補地として挙げられている。

このパイロットスキームがうまく行けば、2010年代の半ばまでにはロードプライシングが導入され、ラッシュ時に最も混雑の激しい道路を走行すると1マイルにつき1.34ポンド程度科されることになる。

Pay-as-you-drive自動車保険

Pay-as-you-drive自動車保険は従来のものより保険料が低額になる、と言われており、ドライバーにとっては魅力である。しかし、ドライバーは低額保険料と引き換えに、いつどこに、どのルートで行ったか、というプライバシーを衛星システムに捕捉されてしまうことになる。Norwich Unionでは独自の pay-as-you-driveスキームを提供している。同社の保険では、ドライバーの年齢、走行時間、走行ルート、走行頻度、利用した道路のタイプによるが、1マイル走行するごとに最低1ペンスから最高1ポンドの保険料を請求される。顧客の車両にはGPS装置が搭載され、すべての走行が捕捉される。GPS装置の搭載費用は50ポンドである。

18歳から23歳の若年ドライバーと、24歳から65歳のドライバー向けでは契約内容が異なる。それぞれが事故を起こす確率を勘案してピーク時の保険料に差を付けている。例えば、事故は夜間に起きる可能性が高いため、夜間走行には高い保険料が科され、高速道路走行の保険料は低額になる。この保険では走行距離が短く、高速道路を利用することが多い契約者に有利となる。



ヨーロッパ・ジャパン・センターではヨーロッパ、アメリカ、アジアに関するリサーチを行っております。大型プロジェクトに求められる詳細な情報や専門家のインタビューから、短時間に解答を必要とするプロジェクトに関わる情報、更にはミーティングのアレンジ、通訳、翻訳サービスを提供させていただきます。